



平成27年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰受賞団体

センソオブアース・市民による自然共生バンゲア からのお知らせ

## 「若木小産とうふ作り」に初ちょうせん

若木小学校3年生◎65名  
10月18日

### センソオブアース出張授業

☆「とうふが大豆からできているなんて。」 ☆「とうふはちょっとざらざらしていてふわふわしていておいしかった！」 ☆「とうふがもっと好き



きになっているんなちしきを学べたのでよかった！」 ☆「95%も大豆が外国から送られてきているなんて。自分で大豆を育ててみたいと思った。」 ☆「最後の最後に固まったからうれしかった。」 ☆「とうふは今まで食べた中で一番おいしかった。」

3年生が、みそ造りより、手間がかかる豆腐作りにちょうせん。国語の「大豆の変身」を学んだ子どもたち。目つきが違います。先生方も豆腐作りに意欲満々で、前日から、大豆を洗い水に浸し、準備万端。

当日は、保護者の応援もいただき、2クラスが2時間ずつ、同日に行いました。

もやしや枝豆が大豆からできているの知らない大人も多いとか言われている中、若木小の3年生は、それをあてただけでなく”おから”や“きなこ”もだれかがあてて、普段の生活で食べている様子もわかりました。全員、大豆製品に興味津々です。



～子どもたちの感想より～ ☆初めて大豆のことをいっぱい知った。 ☆はじめて作ったのにこんなに上手にやれた。おいしかったので、もう1回食べたい。(次ページへ続く)

**予告!! 来春◎3月11日(土)** 於: 板橋区立グリーンホール 2階ホール

◎映画と講演会開催◎

### 映画「天に栄える村」

福島県天栄村、全国一おいしい米づくりの村に放射性物質が降った。農家はあきらめなかった…



主催: 3.11から未来をひらく会

講演  
「福島一食の最前線～」  
元天栄村課長  
吉成邦市 氏



# イモムシのたからぶくろ

中板橋保育園◎4歳児12人・5歳児14人◎10月23日

「木のみを見つけるのが楽しかった。」「生きものをさがすのが楽しかった。」「バナナ虫・オシロイバナの種・ミミズ・クモの巣・ダンゴムシ・・・」

## —先生方の声—

「山中公園にこんなに生きものがいたのに驚いた。みんなと一緒にたからもの探しをしたのが良かった。寒いのにあんまりいないと思ったが、みんな一緒に見つけたのが良かった。」



子どもたちの真剣な姿！

## 板橋区立前野小寺子屋第4弾 「世界で一つしかないわりばしてっぼうを作ろう」



☆作り方は知っていたけれど、今回のてっぼうはとても良かったです。4回の中で一番楽しくて難しかったです。☆作るときいっぱい輪ゴムをつけて、その輪ゴムの力だけでわりばしてっぼうができてびっくり。☆輪ゴムで割りばしを止めるのがむずかしかったです。飛ぶようになったのが楽しかった。飛ばすのが楽しかった。紙の的を作るのが楽しかった。☆輪ゴムのかけ方がわかったら、なんだか楽しくなってきた。☆うまく楽しくできてよかった。みんなと楽しく活動できてよかった。☆とても上手にできて楽しかった。遠くに飛んでとてもうれしかった。おうちでも作ってみよう。☆射的、13点取れてうれしかったです。





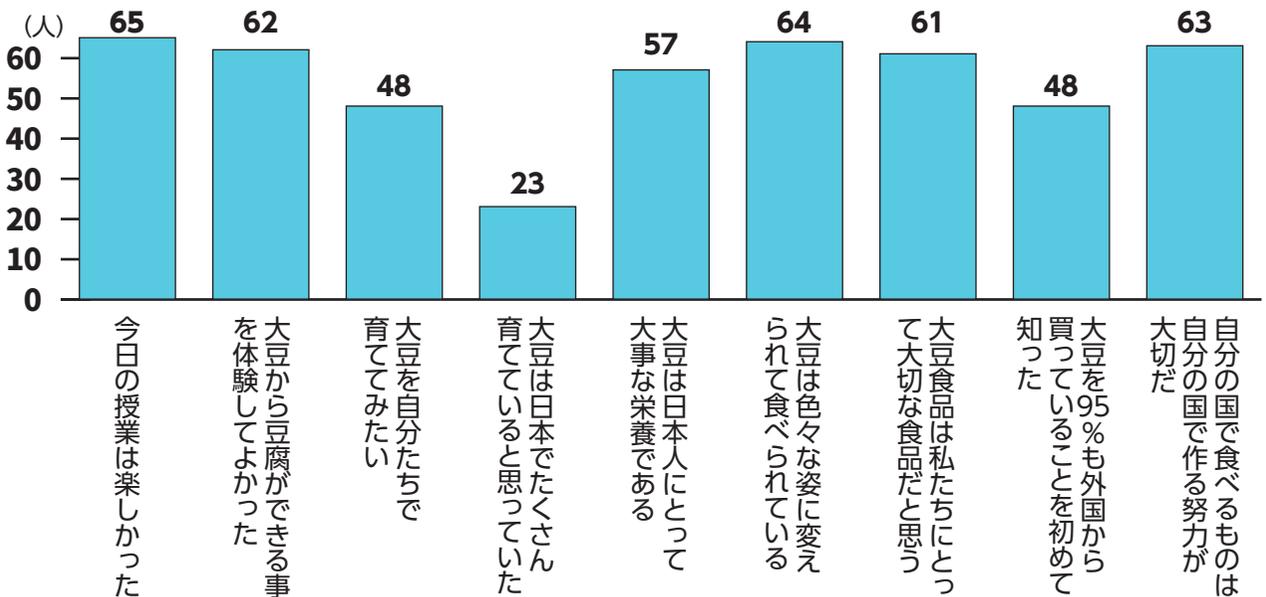
★自分の役目の温度計を95度まで計るのがとても難しかった。★にがりを入れたらやっと、固まってくれた。おいしかった。★3年でしかできない思い出になった。★最後に固まるかなあと心配した。しっかり固まっておいしくできた。★最後のおみそ汁のみそはとってもおいしかった。(昨年作った手づくり味噌を使いました)★袋を絞るとき、面白かった。ミキサーのスイッチを押すとき緊張した。★温度を計るとき暑くて汗をかいた。

★私の豆腐は大きかった。おいしくて何度もお代わりをしたかった。★次はきな粉を作ってきた粉もちといっしょにたべてみたい。★こんなにいろいろな食べ物になっているのはびっくりした。★もう少し、日本で大豆を作っているといいのに。★大豆をいつまでも作り続けてほしい。★とうふがきらいだったけど、今日作ったとうふは食べやすかったからとうふが好きになった。



〈先生方の言葉〉◆豆腐造りの工程がとても分かりやすかった。◆どうしたらいいだろうと友達と考えていた。◆大豆が豆腐に変わる学習をした後だったので、理解がしやすかった。◆授業中、授業後に、豆腐作りについて自分の体験を話に来てくれる児童がたくさんいた。◆作業に楽しんで取り組み、関心を持って話を聞いていた。

## とうふづくりの感想 若木小学校3年生65名◎10月18日



# SOEワークショップ◎10月29日 収穫した綿をつむぐ

4月下旬～5月に植えた綿《左下写真》(元は、NPO法人いた・エコ・ネットが、復興支援でいわき市広野町からもらった種の2世)が、畑から収穫できました。《右写真の机上》

これを使って、ただひたすら、手でよっていきやり方が我流。かえって道具を使うとできないの



が私たちの腕前です。よくよっても、50センチほど。日本人のほとんどが木綿を育て、どの家からもコロリンと糸車が回って、糸を取り、機織りして野良着などの普段着にしてきたことは、夢のような話です。始め、北野事務局長から、綿について、プレゼンを聞き、今は、国産0%、輸入100%の日本の現状を知りました。最今、コットンは静かなブームです。ソフトで温かく、体に優しいもめん。塩害に強く、放射性物質を吸い上げないなどで、福島で栽培が活発です。



～参加者からひと言～☀️「機械を使わず手だけで綿から糸をつむげるとは、思ってもみなかったので、目からウロコでした!」☀️「3年生の授業では、どの



程度の作業ができるかを考えながら糸紡ぎをしました。ワタの種が毛で海水に浮き、広がることを知りびっくりしました。」☀️「普段私たちがみにつけているものの原料として使われている綿をつむぐ機会はなかなかないので、糸が出来上がっていく姿を見るのはとても面白かった。小学生だけでなく中学生～大人まで楽しめそう。」☀️「糸をつむぐということを初めて行ったが、大学生の私でさえ難しく感じました。」「産業革命の実際を知ることができた。海を渡る貴重な種。白い繊維を織物にした人間の英知にびっくり。3年生の研究実践、ぜひ体験をさせましょう。」



発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052  
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp